

平成28年度 P D C A サイクル実施計画・管理表

平成29年5月16日 現在

病院名	実施予定				実施管理					
	課題名	現状の問題点	改善のあり方	改善時期 (予定)	P 計画	D 実行	C 評価			
							区分	内容	区分	内容
神戸医療センター	せん妄対策の推進	せん妄対策の更なる拡充、自立的な継続。自律的に継続する上でも、中止基準の策定	依頼病棟ごとの分析を行い、依頼が少ない病棟への働きかけを強化。依頼が少ない病棟については、依頼件数の増加。依頼が多い病棟については、単なるせん妄チームへの依頼ではなく、自律的に働くようしくみを検討していく。 依頼件数は平成26年度176件から27年度257件に増加しており、せん妄チームの認知・活動は順調に向上していると思われるが、この流れを順調に継続するため、依頼が少ない病棟からの依頼の増加。中止基準の策定が必要。	H29.3			一部達成	前年同期の181件を上回る190件を確保しているが、人員が兼務医師・看護師3人、兼務医師1人となり、きめ細やかな対応が困難。そのため、一部に自律的なとりくみをするosen妄チームへの依頼を看護師へ制限している医師あり。安全性が比較的高い対応からは逸脱しており、現場からも指摘がある。しかし、医師の自立性もあり対応困難	継続	人的リソースが確保出来ない中で、件数はやや増加。質の向上へのきめ細やかな働きかけは困難。最低限の医療安全を保てる薬剤使用について、少ないリソースの中でも質を保てるように、定型化された使用を推進する院内全体の取り組みが必要。検討中。
	がん患者指導管理料の算定	がん患者指導管理料の算定について運用マニュアルを作成し、実施につなげたが、内容の詳細な分析を行い、がん診療における当院での課題を見出す必要がある。また、指導料2については、医師との連携を取りやすい仕組み作りをする必要がある。	・毎月算定件数を検証し、運用の不備面について検証する。	H29.3			未達成	件数も前年の123件 55件と激減。他業務との兼務のメンバー(前年度より減少)のみでは、依頼に対応することが出来ず、患者への公平なサービスとならず、依頼元の医師からメ리트のある仕組みとして認知され、普及することが困難な状況。	継続	当面の状況は変わらないため、少数でも活動を続け、仕組みが廃れないことを最低限の目標とせざるを得ない。
	がん相談支援室の周知	がん相談支援室(支援センター)の存在について、周知が不足しており、重要な意思決定場面や悪い知らせを受けるときに、患者・家族が孤立している可能性がある。	・医療従事者が相談支援センターの役割を知っている状態にする ・医療従事者から患者家族への相談支援室の利用提案が増えるための方策を検討する。	H29.3			未達成	神戸市保健福祉局健康部健康づくり支援課が発行している、がん相談支援センターの小冊子を外科外来に設置。必要時に医師から患者へ渡せるようにしている。実際にこの経路による相談件数はまだ2件と少なく、相談室全体の相談件数も前年度を下回っている。	継続	神戸市発行の小冊子および現在作成中の当院がん相談支援室のパンフレットを外科以外の他科にも設置する。入院時、または手術前には、がん相談支援室があることを外来で患者へ説明してもらい、パンフレットを渡してもらおうとする。各病棟に、がん相談支援室のポスターを掲示する。
	安全な化学療法の実施	治療による発熱性好中球減少症の知識が不足している。それにより、発症時に適切な対応ができないことが考えられる。	・治療にかかわる医療職の全員に、発熱性好中球減少症についての研修を定期的実施する。 ・発症時の手順をフローチャートにする。 ・医師指示のテンプレートを作成し、使用を促す。	H28.9			概ね達成	発熱性好中球減少症発症時の手順についてフローチャートにまとめた。活用状況については把握できていない。研修については2回実施している。	継続	注意喚起のために今後定期的な研修を継続していくとともに、テンプレートの使用を促していく。
	支持療法の統一	治療による副作用症状の支持療法の知識が不足している。それにより、医師ごとに支持療法が異なり、適切な投薬が遅れている。	治療にかかわる医療職の全員に、支持療法についての研修を定期的実施する。 ・医師指示のテンプレートを作成し、使用を促す。	H28.9			概ね達成	悪心嘔吐時の対処方法についてテンプレートを作成した。テンプレート使用のために知識が必要であり、研修を実施している。	継続	定期的な研修を継続していくとともに、悪心嘔吐だけでなく口内炎対策など他の支持療法についてもテンプレートの作成に取り組み。
	がん登録実務の精度向上	・標準登録様式2016年版になり、項目数が増え、内容もより専門的なものになっている。 ・院内がん登録データの活用が今後の課題となっている。 ・がん登録データを集計・分析しホームページ上で広報することが要件として挙げられている。	・実務者が県内外の研修受講を積極的に行い、国立がん研究センターが行っているがん登録実務者認定者研修・更新試験を受け資格の取得を行う。 ・国立がん研究センターが実施するがん登録データ集計・活用研修を受講し、活用方法の知識を習得する。 ・院内がん登録データを利用した分析結果をホームページで公開する。	H29.3			概ね達成	県内外の研修に積極的に参加し、認定試験を受験した。兵庫県実務者ミーティングにて施設におけるがん登録データの活用方法を確認し、データ活用についての知識を習得した。院内がん登録2015年症例を活用した公開データを作成し、公開に向けて準備中である。	継続	継続して、県内外の研修に積極的に参加する。兵庫県実務者ミーティング等他施設との意見交換の中で、より有益な活用方法を検討する。国立がんセンターが実施するデータ活用研修にも今後参加を希望する。兵庫県がん診療連携協議会がん登録部会ホームページに掲載する資料を含め患者様に有益な情報を平成29年3月中に提供できるよう準備を進